

下松市の景観に関するアンケート結果報告

(対象：中学生及び小学4年生の保護者)

《 概要版 》

《調査の目的》

下松市では、景観を守り、次世代に引き継いでいくため、平成24年に「景観計画」を策定した。その後、時間の経過や生活スタイルの変化により、まちなみも変化してきていることから、令和3年度に計画の見直しを検討している。

そこで、市民が日常生活の中で感じている「景観」について意見を収集し、計画見直しの基礎資料とするため、本アンケート調査を実施した。

《調査の実施方法》

	中学生	小学4年生の保護者
調査対象	市内の3中学校 (下松中、久保中、末武中)	市内の7小学校 (下松小、久保小、公集小、花岡小、 豊井小、中村小、東陽小)
対象者	2年生の生徒全員	4年生の保護者全員
調査方法	直接配布・回収	児童を通じて配布・回収
調査期間	令和3年2月22日 ～令和3年3月16日	令和3年2月22日 ～令和3年3月16日
回収数	476通	429通

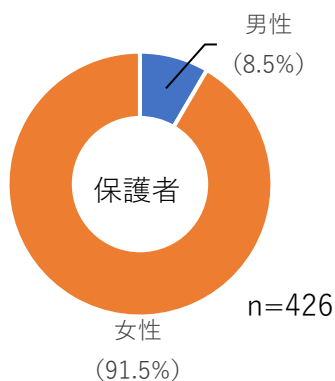
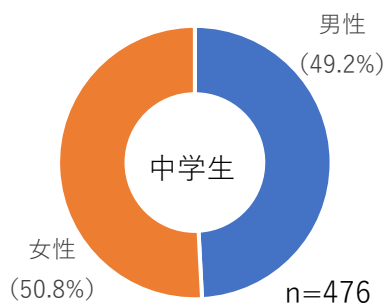
(注意事項)

- ・「小学4年生の保護者」は、以降「保護者」と表記する。
- ・割合(%)は、小数点第2位を四捨五入した数値を表記しているため、合計が100.0%にならない場合がある。

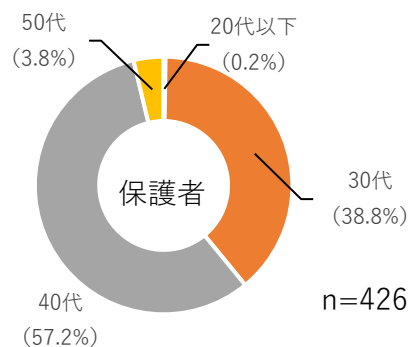
■回答者の属性

- 性別は、中学生は男女およそ半々となっており、保護者は大部分が「女性」となっている。
- 保護者の年代は、「30代」と「40代」が大多数を占めている。

《性別》

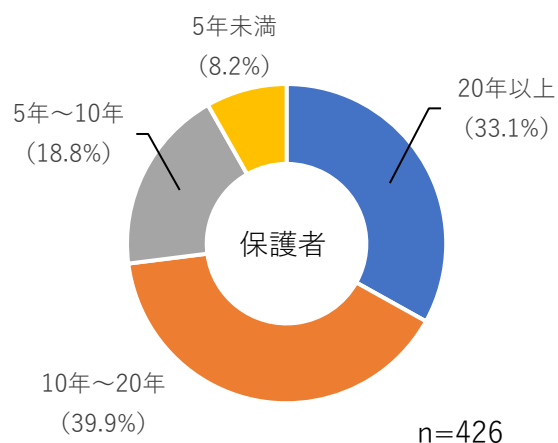
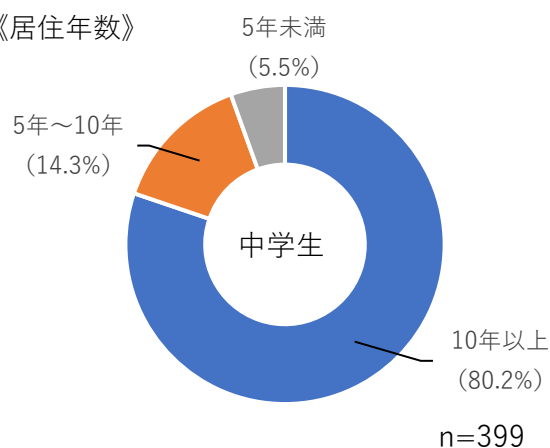


《年代》（保護者のみ）



- 居住年数は、中学生は「10年以上」が大部分を占めている。保護者は「10年～20年」が最も多く、次いで「20年以上」が多くなっている。

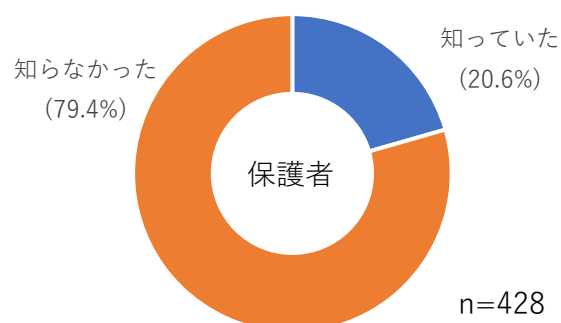
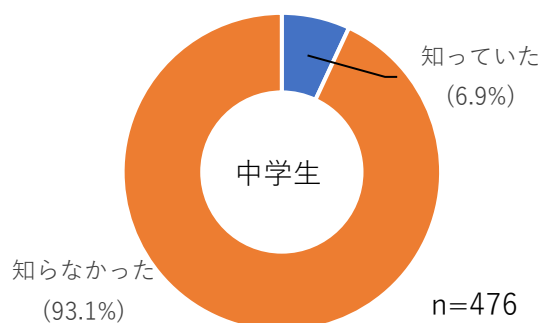
《居住年数》



※久保中学校の生徒からの回答は不明

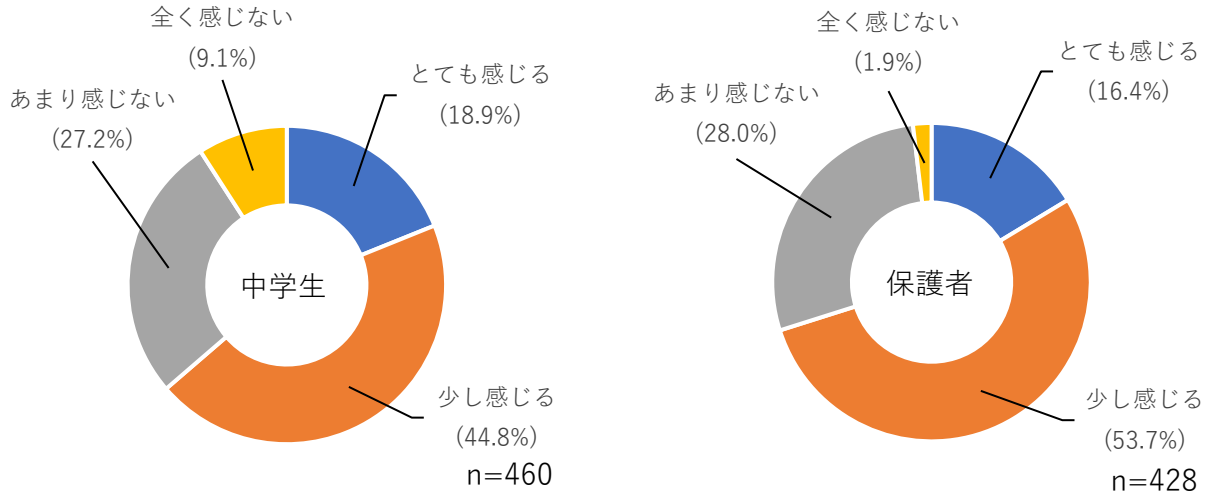
問1 下松市に景観計画があることを知っていたか

- 中学生と保護者のいずれも、「知らなかった」が大多数を占めている。



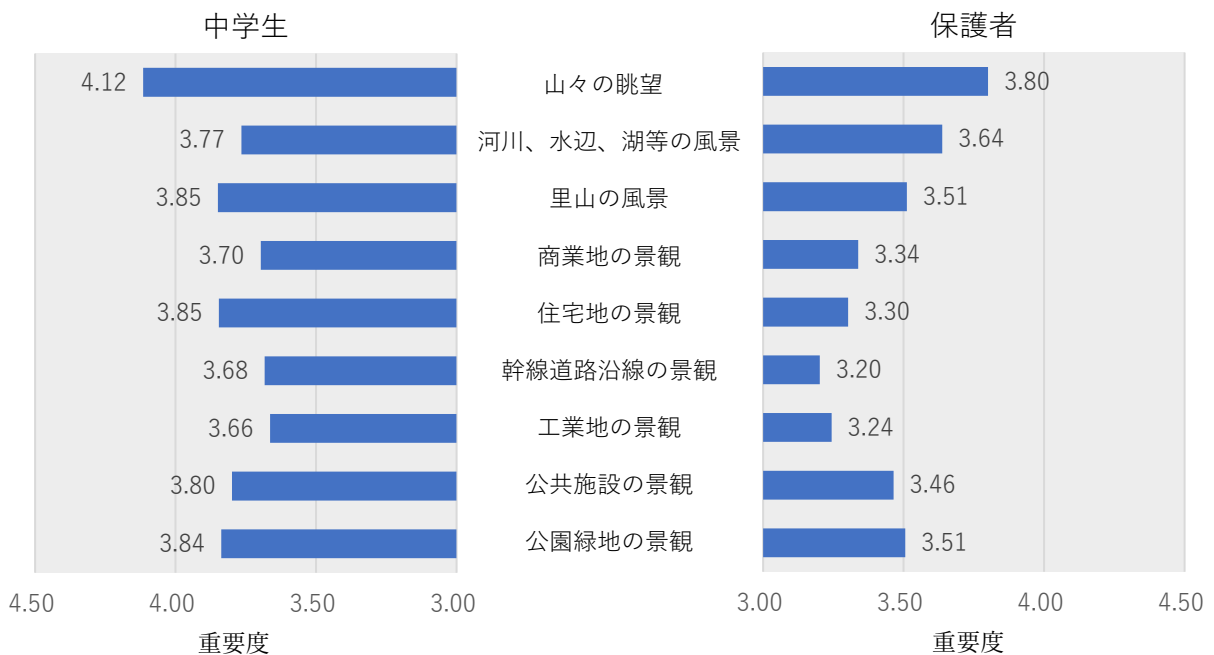
問2 下松市の景観について、どのくらい魅力・愛着を感じるか（1つ選択）

●魅力・愛着を感じる（「とても感じる」＋「少し感じる」）の割合は、中学生と保護者のいずれも過半数を占めている。



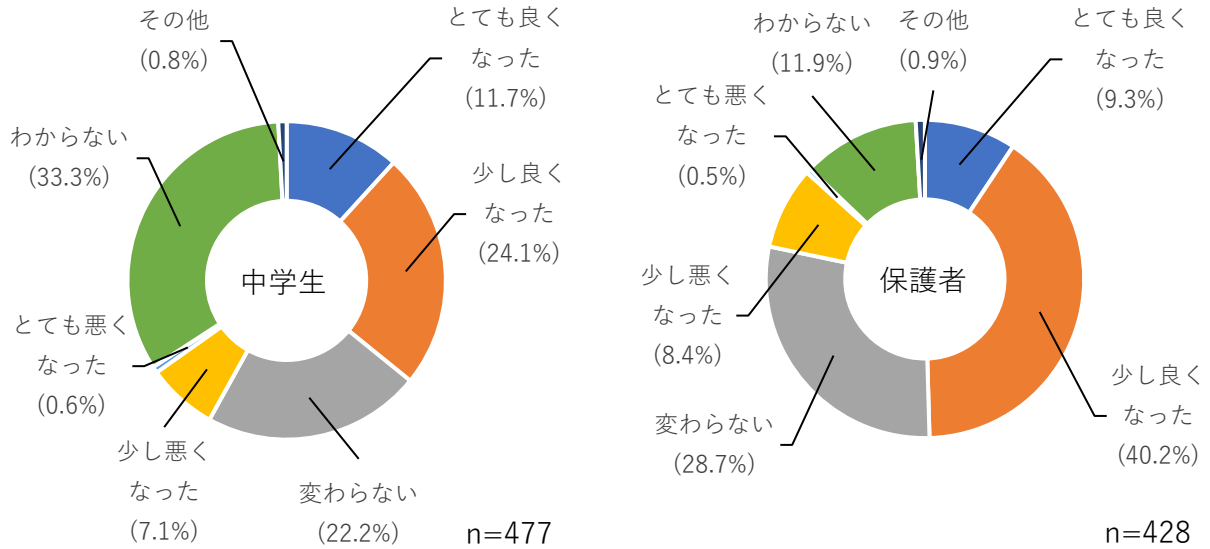
問3 下松市の景観について、どのように評価するか（5段階評価）

●中学生と保護者のいずれも、「山々の眺望」の評価が最も高くなっている。次いで、中学生は「里山の風景」「住宅地の景観」、保護者は「河川、水辺、湖等の風景」「里山の風景」「公園緑地の風景」となっている



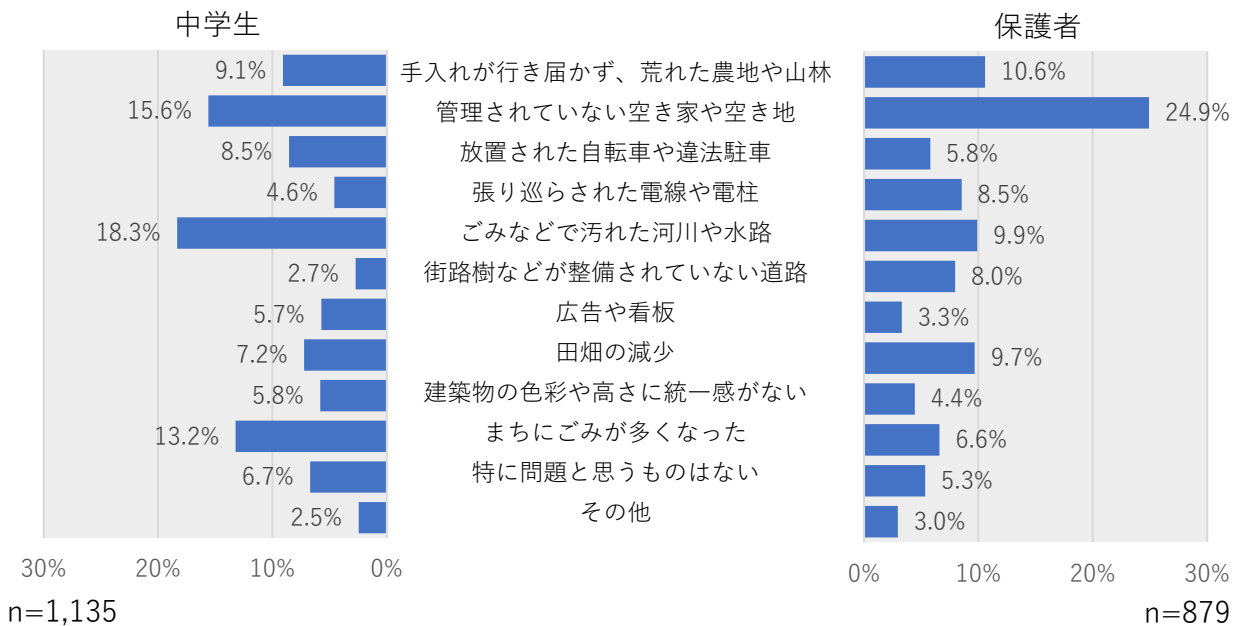
問 4 10 年前（または居住開始時）と比べて下松市の景観はどう変化したが（1つ選択）

●良くなった（「とても良くなった」+「少し良くなった」）の割合は、中学生で 35%程度、保護者で 50%程度となっている。



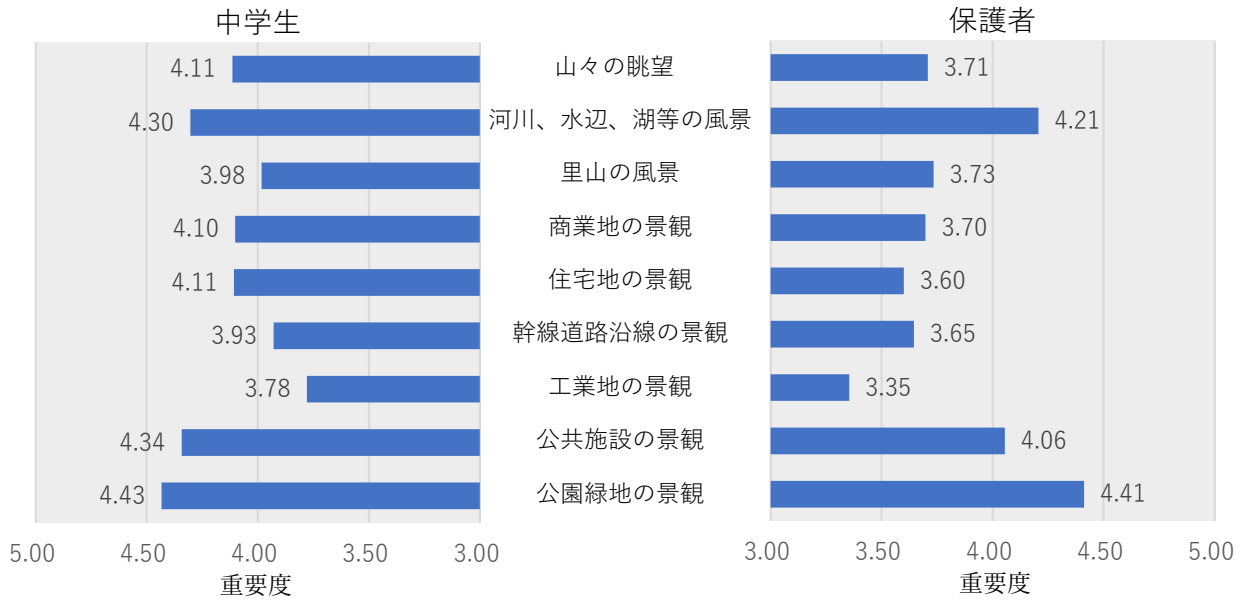
問 5 下松市全体で景観を損ねていると思うものは（3つ以内）

- 中学生は、「ごみなどで汚れた河川や水路」が最も高く、次いで「管理されていない空き家や空き地」や「まちにごみが多くなった」となっている。
- 保護者は、「管理されていない空き家や空き地」が最も高く、次いで「手入れが行き届かず、荒れた農地や山林」となっている。



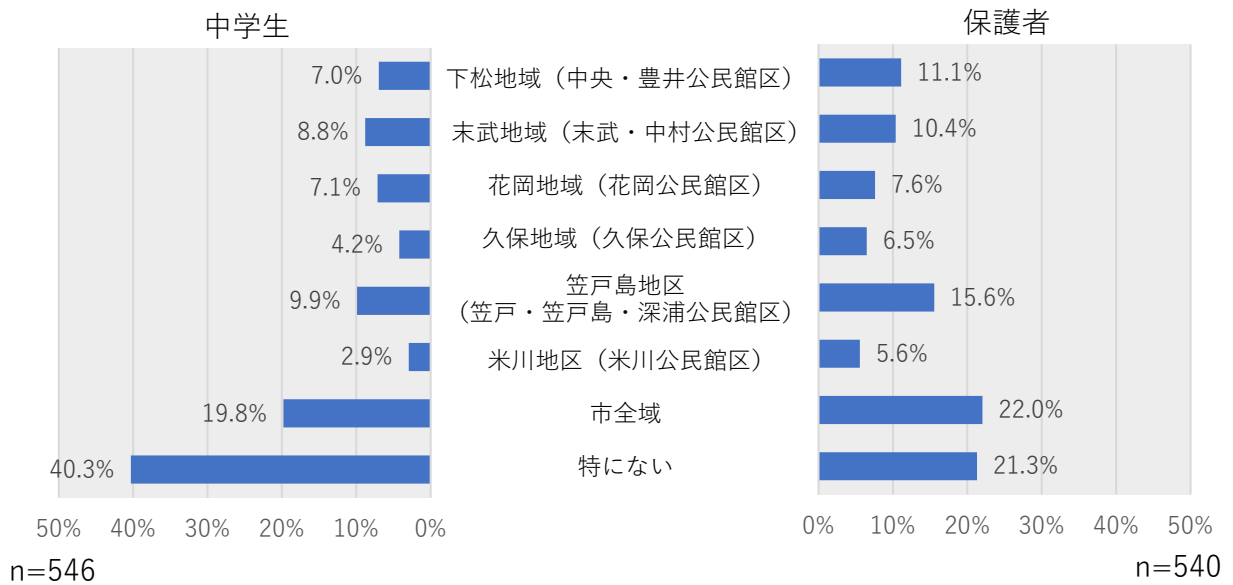
問 6 これからの景観を考える上で、あなたが大切だと思うまちなみは（5段階評価）

●中学生と保護者のいずれも、「公園緑地の景観」の重要度が最も高くなっており、次いで「公共施設の景観」や「河川、水辺、湖等の風景」となっている。



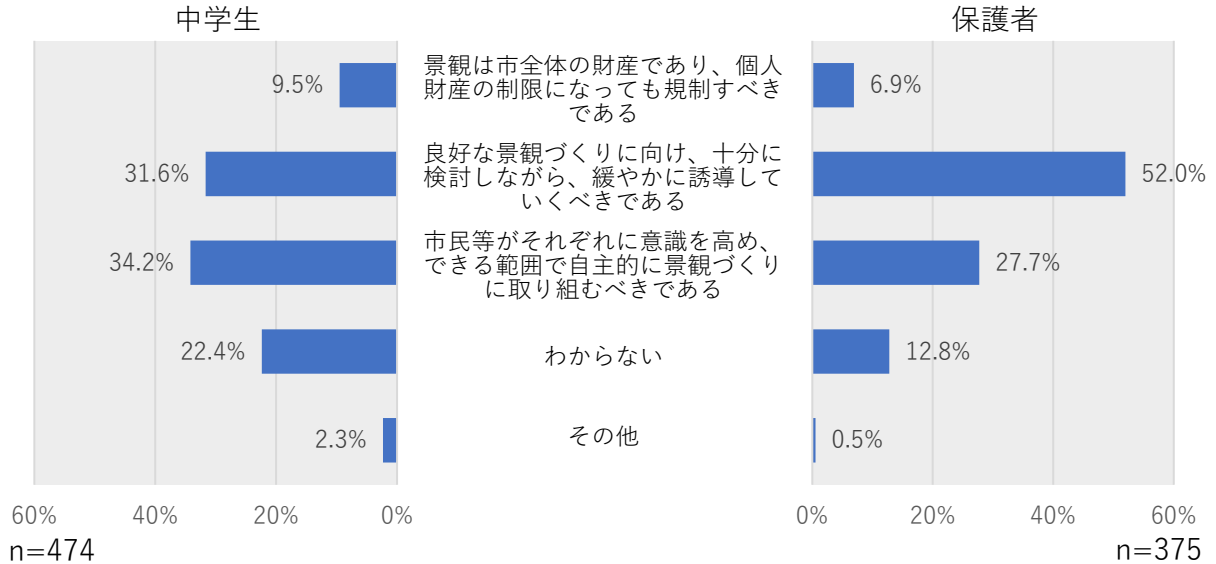
問 7 特に重点的に景観づくりを進めていくべきだと思う地域は（複数可）

●中学生と保護者のいずれも、「特にない」や「市全域」の割合が高くなっている。



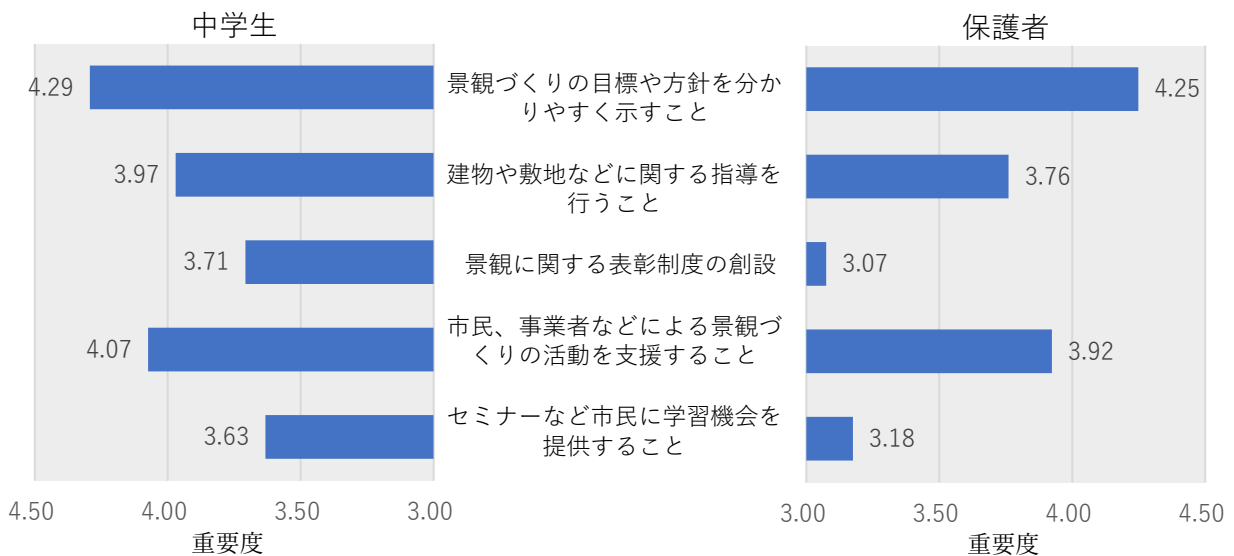
問 8 下松市の良好な景観を守り育てていくための取り組む姿勢は（複数可）

- 中学生は、「市民等がそれぞれに意識を高め、できる範囲で自主的に景観づくりに取り組むべきである」が最も高くなっている。
- 保護者は、「良好な景観づくりに向け、十分に検討しながら、緩やかに誘導していくべきである」が過半数となっている。



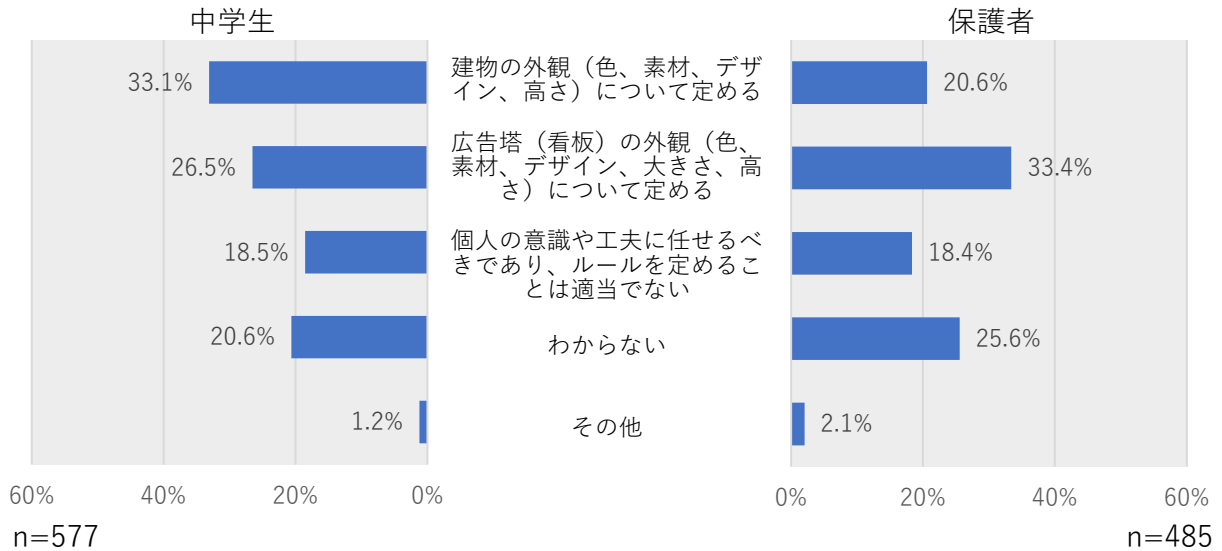
問 9 景観づくりのために行政が取り組むことは（5段階評価）

- 中学生と保護者のいずれも、「景観づくりの目標や方針を分かりやすく示すこと」の重要度が最も高くなっており、次いで「市民、事業者などによる景観づくりの活動を支援すること」となっている。



問 10 下松市内で具体的なルールを定めるとしたとき、どのようなルールが必要か（複数可）

●中学生は、「建物の外観（色、素材、デザイン、高さ）について定める」が最も高く、保護者は、「広告塔（看板）の外観（色、素材、デザイン、大きさ、高さ）について定める」が最も高くなっている。



問 11 景観づくりのために、市民と行政が協働して行う取り組みの重要度は（5段階評価）

●中学生と保護者のいずれも、「道路や河川、公園などを美しくするための清掃活動」の割合が最も高く、次いで「まちなかに緑や花を増やす取り組み」となっている。

